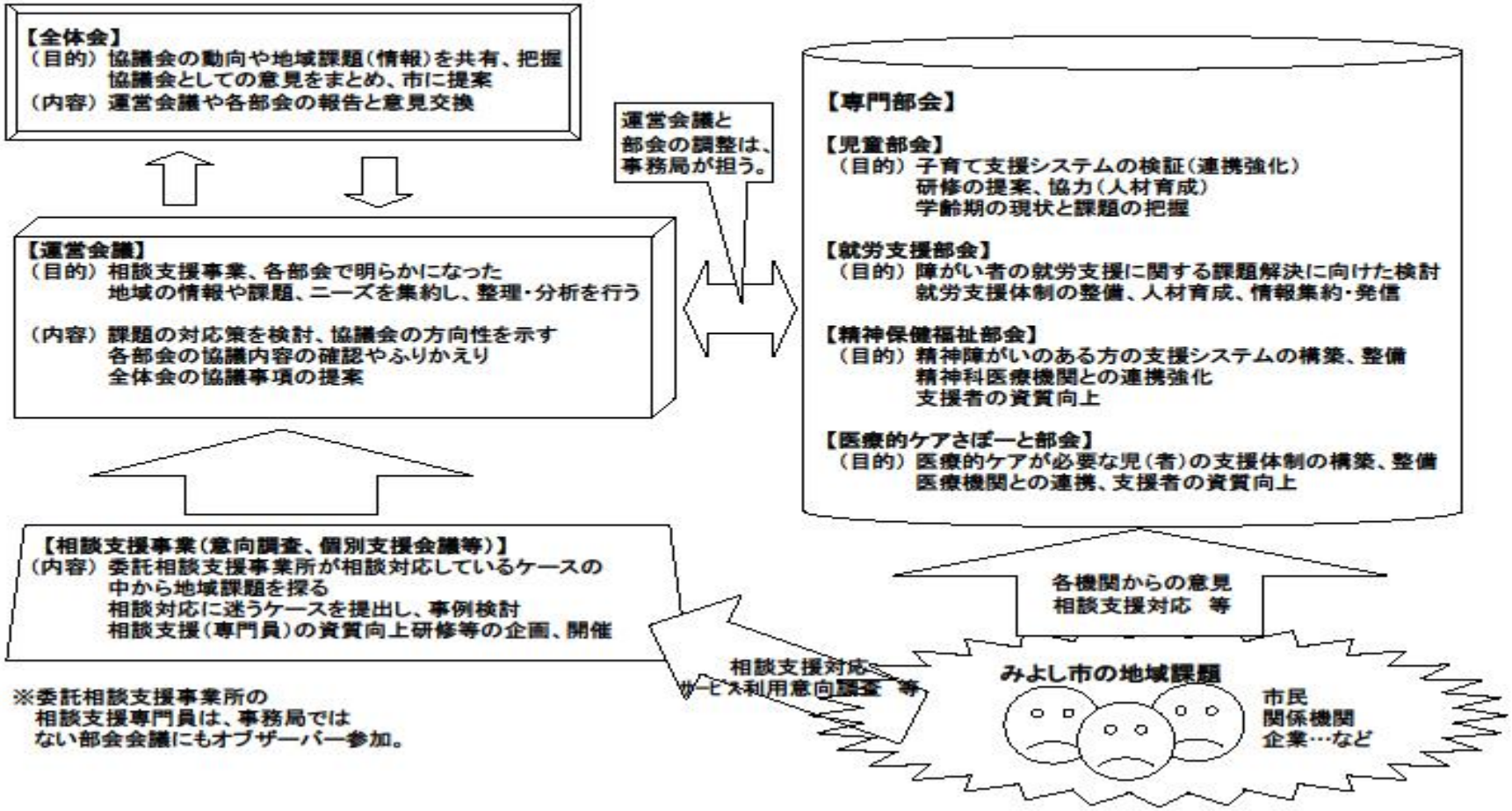
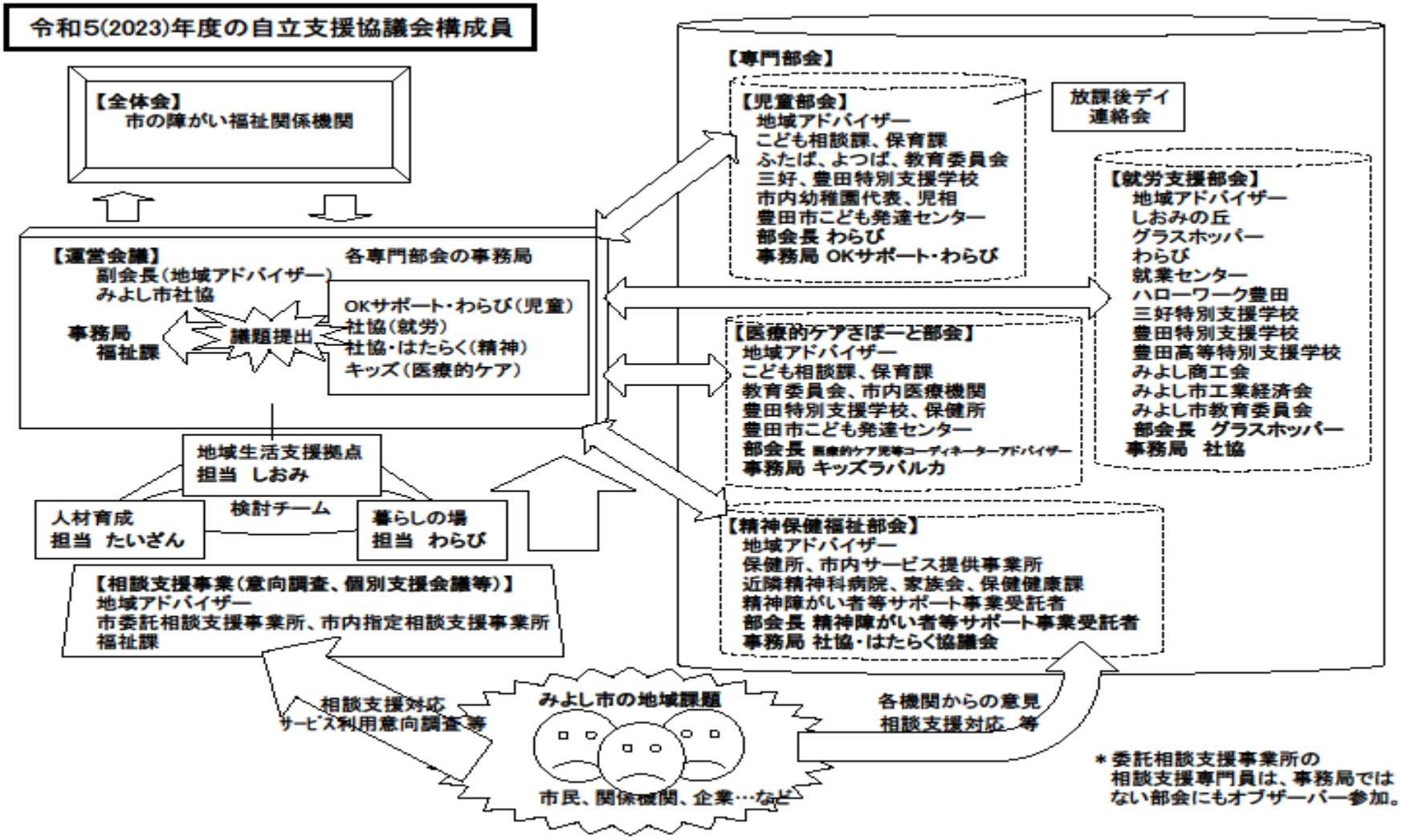
令和5(2023)年度の自立支援協議会協議内容



※委託相談支援事業所の
相談支援専門員は、事務局では
ない部会会議にもオブザーバー参加。

令和5(2023)年度の自立支援協議会構成員



＊委託相談支援事業所の相談支援専門員は、事務局ではない部会にもオブザーバー参加。

令和５（２０２３）年度暮らしの場検討チーム第１回緊急時支援 WG 会議録

開催日時：令和５年６月15日（木）
作成者氏名：　深田　明男

参加機関（参加者氏名）
さくらの丘 谷口氏・みよしの里 長沼氏・いきものがたり 古橋氏・わらび 重松氏 しおみの丘 堤氏・福祉課 清水氏、立石氏・わらび 深田（事務局）
議題（協議事項）
緊急時の受入れ体制の整備について検討
主な内容

１．暮らしの場検討チーム運営目的等について（説明：堤）
（別紙「運営目的等」「年間計画表」資料参照）
特に意見なしで内容について了承

2．緊急時の受入れ体制の整備について
・緊急時支援の登録状況について報告
深田→別紙「緊急時対応を必要とする方の実態調査票」を基に進捗状況説明
令和４年10月の調査で対象となる方が17名いるが、内４名が必要ではなくなった。
理由として
① サービス利用事業所での対応が可能となった。
② 食事及び入浴介助のみのためヘルパー事業所での対応が可能となった。
③ GH 利用になった。
④ 居住地が変更した。
・受け入れ先との協定について進捗状況確認
みよしの里→進んでいない
泰山寮→協定書の作成の連絡はない。受け入れに向けて早急に進めて欲しい。
福祉課→阪田氏と WG のズレがある。短期入所の枠内であればサービスなので問題はないが、短期入所が満床でも利用できる形が必要となる。どのような形でどのように支払っていくか後で問題にならないようにしていくためにも、まずは豊田市に確認していく。（契約方法や登録人数等）
重松氏→居室として指定を取っている場所以外の空きをどう利用していくか。
古橋氏→いきものがたりも夜間利用は可能である。通所事業所の夜間利用は可能であるが、その場合誰が対応するのか。何かあった場合のことを考えると、その法人の人がいないと困る。
課題：誰が対応するのか。仮に相談支援専門員のが対応するとした場合、法人の理解が必要となる。
清水氏→豊田市以外に緊急時支援を取組んでいるところがあるか。
深田　→名古屋市は地域支援拠点として整備され緊急時支援や宿泊体験に活用されている。半田市は災害時の拠点として整備されている。
堤氏→今後、法人に緊急時対応を呼び掛けていくことも検討していく。
（日中・GH・入所など）

谷口氏→その方にとって、どこで支援していくことが必要なのかを詳しく相談支援専門員に調査していけると新たな取組み方が見えてくると思われる。

・新たな受入れ候補先へのヒアリング

堤氏→ヒアリング内容の説明及び確認（別紙ヒアリング内容（案）参照）

谷口氏→受入れについて課題がある中でヒアリングを実施するのではなく豊田市のヒアリングやその方にとって、どこで支援していくことが必要かについて詳しくわかった段階で新たな受入れ候補先へのヒアリングを実施するか再度検討していけると良い。

3. その他

次回：10 月 19 日　ふれあい交流館 102 会議室

決定事項（まとめ）

・8 月に豊田市へヒアリングに行き予算が必要であれば 10 月までに報告する。

・次回の WG で新たな受入れ先へのヒアリング及び受入れ方法について検討していく。

宿泊体験の場が必要と思われるケースの実態調査

相談支援事業所名	

No.	当事者							
	性別	年齢	手帳・受給者証の有無				宿泊体験の利用を希望する理由	備考
			身体	療育	精神	福祉サービス		
1							□地域移行支援として □一人暮らしに向けて □GHの利用に向けて □その他（　　）	
2							□地域移行支援として □一人暮らしに向けて □GHの利用に向けて □その他（　　）	
3							□地域移行支援として □一人暮らしに向けて □GHの利用に向けて □その他（　　）	
4							□地域移行支援として □一人暮らしに向けて □GHの利用に向けて □その他（　　）	
5							□地域移行支援として □一人暮らしに向けて □GHの利用に向けて □その他（　　）	
6							□地域移行支援として □一人暮らしに向けて □GHの利用に向けて □その他（　　）	

地域生活支援拠点等について（体験の機会・場）

地域移行支援や親元からの自立等に当たって、共同生活援助等の障害福祉サービスの利用や一人暮らしの体験の機会・場を提供する機能
「地域生活支援拠点等について　～地域生活支援体制の推進～　平成３１年３月厚生労働省障害保健福祉部障害福祉課」資料より抜粋

令和５年度第３回全体会開催前

平均値(ｽｺｱ)	相談	緊急	体験	人材	地域	行政	協議会	事業所
総計	3.23	2.58	2.12	3.20	2.92	2.85	3.31	2.58
全体会構成員	3.28	2.78	2.28	3.12	2.94	3.17	3.44	2.78
事務局	3.20	2.50	1.70	3.40	2.90	2.10	3.00	2.20
事務局と構成員のズレ	0.08	0.28	0.58	-0.28	0.04	1.07	0.44	0.58

全体会後の再評価

平均値(ｽｺｱ)	相談	緊急	体験	人材	地域	行政	協議会	事業所
総計	3.25	2.50	1.96	3.04	2.96	2.68	3.36	2.43
全体会構成員	3.30	2.65	2.05	2.90	3.00	2.90	3.50	2.55
事務局	3.20	2.50	1.70	3.40	2.90	2.10	3.00	2.20
事務局と構成員のズレ	0.10	0.15	0.35	-0.50	0.10	0.80	0.50	0.35

	評　価	課　題
相談	レベル３以上、くら・はたが機能	障がい福祉従事者への周知
緊急	要綱・フローの整備	緊急時の受入先が対象者に認知されていない
体験	日中・職場体験先は充実してきている	スコアが最低値、体験先がない
人材	レベル３以上、多様な研修がある	SWとしての評価指標がないため判断が困難
地域	地域資源・関係機関の繋がりがある	障がい者計画・福祉計画との連動は…
行政	会議等への出席	市（行政）として方向性・取組が不透明
協議会	スコアが最高値、活発に動いている	官民一体には不充分
事業所	担当者レベルでの繋がりがある	障がい福祉従事者への当事者意識はまだ

評価
構成員と事務局で評価のズレが大きかった体験、行政、事業所の評価の差は縮まった。全体会で意見交換を行った効果が出ているが、唯一事務局の評価が高かった人材は逆に差が広がる結果となった。

令和５（２０２３）年度　就労支援部会　第１回会議録

開催日　令和５年６月１９日（月）
時間　１０：００～１２：００
場所　みよし市役所１０１会議室

参加機関（参加者氏名）
相談支援アドバイザー（阪田氏）、西三河北部障がい者就業・生活支援センター（山田氏、鈴木氏）、豊田公共職業安定所（松井氏）、みよし市工業経済会（廣瀬氏）、三好特別支援学校（井上氏）、豊田特別支援学校（高木氏）、豊田高等特別支援学校（辻氏）、みよし市教育委員会学校教育課（大成氏）、わらび（深田氏）、しおみの丘（松平氏）、みよしはたらく協議会（鶴田氏）、みよし市福祉部福祉課（清水氏、立石氏）、grasshopper（山口氏）、はたらくサポートセンター（横山氏）、みよし市社会福祉協議会（中村）

議題（協議事項）
１．令和５（２０２３）年度就労支援部会の運営方針について ２．就労支援部会構成員について ３．福祉的就労について
主な意見
◆就労の定着率について ・実態調査をするにあたって、関わり方は必要か。調査項目も必要に応じて変化があると思うので、特記事項として挙げていくのはどうか。 ・関わり方をカテゴリ分けしたときに特記事項が生かされるのでは。関わり方のチェック欄があると分かりやすい。 ・就労を継続している人は調査しないのか。参考になると思う。 ・相談員がどのように関わったのか、でも辞めてしまった、が分かるとより分かりやすい。調査項目は前回と同じ内容に、どんな支援をしたかを聞いてもらうといいかと思う。 ・相談員や就労支援員は問題があったときだけ動くのか。会社から出る課題は生活面か仕仕事面か。面談や訪問頻度は。 　→問題があったときだけではなく、いろんなパターンがある。生活面や病状について会社はできないこともある。発達で伝わらないときは伝え方のアドバイスはする。タイミングは人によって違う。 ・働く場所は、Ａ 型等もあるが。いろんなサービス、課題は変化していると思う。サービスを使う、ではなく相談員は就労を勧めているか。 　→最終的に本人が何をしたいかによる。 ・課題は常に変化しているので対応してほしい。 　→企業の中でも働き方は変化している。以前は雇用率を増やすために座ったままの作業等が主流だったが、今は戦力として雇用される。皆さんと一緒に課題を抽出していきたい。 ◆職場体験冊子について ・（三好特別支援学校）２年生の実習が始まった。受ける現場が話を聞いてないことが多い。会社上層部だけでなく、現場サイドの理解が進むといい。熱心な職場もあるが、忙しい現場は難しい。店長がすぐに変わってしまうなど。 ・（豊田特別支援学校）実習を開始すると現場が対応する。２年生は伝えられないことが

あるが、３年生の実習は対応してくれる方が打ち合わせに入ってくれる。
・受け入れ前の段階での伝達。会社のやり方でやってしまう。いかに特性を伝えられえるかによって受け入れができるか。最初の段階で躓くので前段階が大切と改めて感じた。
→冊子配布時にそのあたりも伝えていきたい。
・３年生は就職を目指しての体験。２年生は体験的なので目的が違う。体験的なところがほしい。こんな風に集めているというのが分かるといい。こんな職種がほしいなど具体的に見えてくるといい。いつぐらいまでにリストアップできるのか。あれば協議できる。
◆就労支援部会構成員について
・商工会が参加しない理由は、当初決算期で人が出せないとのことだった。令和２年は参加予定だったが、急用が入った。その後はアポイントを取っていない。
・部会に対して必要なメンバーが参加していると思う。来なくなったからいいというわけではない。工業経済会さんに対しても同様。なにかメリットがあるのか。来ていただいているのに申し訳ない。全体通して参加の仕方を考えていいと思う。部会の運営目的を確認して再考する、部会を通して検討したい。
・商工会が長年参加していないことで困っていることは。工業経済会に協力してほしいことがあるのか。みなさんの意見を聞いた方が良い。
・課題や目的について選定している。役割、出番がはっきりしていないと感じる。企業とのつながりがあるので役割をはっきりさせてもいいと思う。商工会や経済工業会にもお世話になっている。
・商工会がどうというより、部会が何をしたいか。障がい者就労を何からスタートするのか、知ってもらうことから。パンフレットで周知啓発をした。こういうことがやりたい、が明確に伝わる。メリットがないといけない。議論を深めてから選定でいい。国が就労定着を進めているが弱い。職場も働き方も違ってきている。障がい者の就労だけではない。一般企業の捉え方も変化している。こういうことを説明しながらやっていくことが大切。
・小さな商店の職場体験、そういう意味で商工会。障がいを持った人達が働いている姿を見てもらった。配布物を置くなどもした。
◆福祉的就労について
・悩みごととして、福祉的就労をしている方の工賃や収入について。障がい者年金１きゅ受給者はなんとかなっているが、２級受給者は本来赤字。補助があってなんとか生活できている。グループホームに入居している利用者はぎりぎりの生活を送っており、好きなことや楽しみができない。親なき後の生活を考えると厳しい現実となる。今後検討していきたいと思い発言した。

決定事項（まとめ）

・職場体験先のリストアップは、企業に公表確認を取っていないので、第２回就労支援部会までにリストアップを行う。
・構成員については、事務局で認識を確認する。
・福祉的就労については、運営会議で検討する。

その他、連絡事項等

・雇用支援セミナーの報告で、部会として協力していくと記載されているが、どの部分を協力していくのか構成員として知っておきたい。また回答下さい。

記録作成者：みよし市社会福祉協議会　中村美香

令和５年度　第１回精神保健福祉部会（報告書）

開催日　令和５年６月28日（水）
時間 10：00～12：00
場所　市役所 301 会議室

参加機関（参加者氏名）
相談支援地域アドバイザー（阪田氏）、衣浦東部保健所（中根氏）、衣ヶ原病院（岩松氏、西本氏）、豊田西病院（鷲津氏）、和合病院（氏益氏）、さつき会（畠中氏）、ふれあいサービス（横山氏）、保険健康課（田之上氏）、福祉課（清水氏、立石氏）、シエルブルー（兼重氏）、社会福祉協議会（江川氏）、はたらくサポートセンター（藤城）

議題（協議事項）
（１）令和５（2023）年度のみよし市障がい者自立支援協議会について （２）精神保健部会について （３）精神障がい者の地域生活を支えるピアサポートの力の活用について （４）市の精神保健福祉の課題が集約できる体制について （５）こころのサポートガイドinみよしの改訂について （６）みよし市の自殺対策計画について
主な意見
（１） 令和５（2023）年度のみよし市障がい者自立支援協議会について 組織図、協議内容など、福祉課より説明。 （２） 精神保健福祉部会について 部会の目的と取組内容、令和５年度の運営目的、年間計画、および、昨年度の振り返りと今年度の方針について、部会長より説明。 ・安城市の事業所長を招きピアサポートついて学んだ。シエルブルーの利用者でピアサポートグループを作った。今年度はピアサポーターの養成について検討。 ・シエルブルーの稼働状況を報告しながら社会参加の課題をあげたが解決に向けた検討はできていない。精神障がい者等サポート事業として取り組む。今年度は他の課題として大きい、退院支援における課題を検討していく。 ・ひきこもり支援連絡会を発足させ３回開催し現状を把握した。しかし、部会の中に設置したが本来精神障がい者等サポート事業で行うことなので、今年度は、ひきこもり支援連絡会を部会から出し、精神障がい者等サポート事業のネットワークづくりとして取り組む。部会から連絡会に参加し、精神の課題については部会で報告していく。 （３） 精神障がい者の地域生活を支えるピアサポートの力の活用について ・精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム（通称：にも包括）の一環としてピアサポーターの活用をみよし市として取り組んでいきたい。 ・ピアサポーターの養成研修を愛知県や西三河圏域で行っているので、その研修に参加する人を増やしていく。みよし市は、市として準備の段階でやっていく。 ・ステップとして、①みよし市のピアサポーターの在り方を検討。②ピアサポートの啓発とピアサポーターと出会えるイベント開催。③養成研修参加のフォロー。④次年度研修に参加したピアサポーターのフォローアップ。 ・仲間同士での支え合いが本人の役割になるのではないか。

・目的を定め、対象者をしっかり選んでいかないと、主治医や家族に迷惑がかかることとなるのではないか。プライバシーの配慮をしっかり行い、地域に出れば地域の良さも分かるが安心できるバックボーンが欲しい。
・病院側としてはピアサポートを活用していかないのか？
・長く入院しているとどうしてよいかわからなくなり、一歩を踏み出す勇気がなくなるのではないか。ピアサポーターで退院できた人とデイケアの人が意見交換したことはある。経営上の問題もある。デイケアの利用者同士が、話すことでピアサポートの役割をしていることもあるが、怖さもある。正しい病名を主治医から伝えられていない人が、他者からの情報が入ることで混乱することも考えられる。
・退院に向けての道筋はつけるが、地域との結びつきはあまりない。個人的には、地域でと思うが、病院としては難しいことが多い。
・ピアサポーターが退院支援に入ったことはない。いいことだと思うが、相性とか知識とか難しいと思う。退院したい人の地域移行の活用も以前は難しかったが、少しずつ良くなってきているので、ピアサポーターの活用も実績によって医師も認めてくれるのではないか。地域移行よりも退院した後の定着支援の方が難しいのではないか。
・病院としては、ピアサポーターはあまり必要とされていないように感じる。医療者向けのピアサポーターの研修に参加してよかったとは思うが、ピアサポーターの優先度は低いと思っている。
・退院に向け幻聴がある方が、ピアサポーターが「僕も幻聴があった」と言った事で安心して退院できた事例があった。みよし市として、ピアサポーターは何をする人か、あり方を考えていく必要があるのではないか。
・病院が求めるピアサポーター像を考える必要がある。病院の特性を考えてどういった事があったらピアサポーターを活用したいかと考えていく必要がある。
・ピアサポートをしたい人に出会わなければいけないので、出会いの場（イベント）を第２回の部会までに検討し、ピアサポーターに何をしてもらうかも検討しなければいけない。そして県か西三河圏域のピアサポーター研修に参加してもらう。第３回の部会では、次年度の活動としてピアサポーターのフォローアップを検討し、ピアサポーターが次のピアサポーターを引き上げる仕組みを作っていきたい。

（４） 市の精神保健福祉の課題が集約できる体制について

（退院に関わる課題）

・退院に関わる事例の検討を第２回部会で行う。担当の相談支援専門員よりケースの概略を説明してもらう。仁大病院の退院支援のケースだが、家族の受入れの問題もあり、グループホームもなかなか見つからなった。
・第２回部会に病院ワーカーも参加してもらう。
・なぜ地域移行・地域定着支援を利用しないのか。→メリット・デメリットがある。支援者の足並みを揃えるのが大変。病院に入院していても情報共有できるが、退院すると情報が本人だけのものになってしまう。支援者が病院に連絡しても退院すると個人情報は共有が難しい。
・第２回部会までに退院しているかもしれないが、ケースを動かすことが目的ではなく、課題を抽出するために事例検討を行う。
・和合病院としては、とにかく退院してくれればよいスタンス。地域移行の仕組みを使うかどうかはどちらでもよい。病院だけで考えることが難しい。退院支援は、基幹の

相談員も交えて考えたい。

（ひきこもりに関する課題）

・今年度、ひきこもり支援連絡会は部会の外の位置づけとする。

・ひきこもりであっても障がいが隠れているケースが多いので、精神の課題があれば部会でも報告していく。

・今年度は、年２回おこない、第１回は８月に行う予定。１回目はシエルブルーの事例を用い課題が共有できるように考えている。

・精神障がい者等サポート事業は委託事業。自立支援協議会の中では課題が上がっていかないので部会でも上がらないのではないか。自立支援協議会の中にひきこもり支援連絡会を入れるのはどうか。→市の委託事業として、ひきこもり関係機関のネットワークづくりがあるので事業として行う。ひきこもり支援連絡会へは精神保健福祉部会からも参加しており、課題は部会に持ち帰る。協議会の運営会議でも報告する。

・豊田市の大地の会（ひきこもりの会）に２０数年前から入っていたが、病気だと分かって入っている人と違う原因で入っている人がいる。どこで分ければよいのか。→ひきこもっている人と、精神疾患を抱える人は、重なる人もいれば重ならない人もいる。病気が有る無しに関わらずひきこもりの人は、生きづらさがある。

（５）こころのサポートガイド in みよしの改訂について

・保健センターなど市の組織変更に伴いなくなった表記もあり、在庫もないので改訂する。シエルブルーができたので掲載。配置はまだ決まっていない。

・就労移行支援事業所のみ載っているが、就労Ａ型Ｂ型など希望をきいて載せる。

・手書き風のフォントは文字数が増えてくると読みにくいので変える。ユニバーサルデザインUD１２サイズに変更。

・精神疾患の方が行くＡ型Ｂ型事業所、就労移行も載せようと思うが、ページ数を増やすことも検討する。QR コードを使う事で地図は、省くことはできるのでは。

・今年度の印刷に間に合うように作成する。

（６）みよし市の自殺対策計画について

・平成 31 年度より５年間国の動向もふまえ必要に応じ計画の見直しをおこなう。

・福祉課と一緒に進めていくのはどうか。みよし市の自殺者は１桁だが、県の動向をみながら市として策定義務があるので、地域に即した計画を策定していく。精神保健と自殺は切っても切り離せない問題である。

・生きづらい社会が問題ではあるが、心が強くならないといけない。現代はネット社会であり、何でも答えを探そうとするが、福祉の問題は、答えがない。

【総括】

阪田氏：精神保健福祉部会もう１回整理しないといけないのではないか。
ひきこもり、ピアサポートの課題が（病院が抱えているピアサポートの問題など）ふわふわしており、もう少し練り込んでいく必要があると思う。

決定事項（まとめ）

・ピアサポーター養成については、年度末開催（予定）の西三河の研修に参加していく人を探す。年末にイベントを行いピアサポートの啓発をする。まずはみよし市におけるピアサポーターの在り方を検討していく。

・退院に関する事例検討は仁大病院のケースで行う。

・ひきこもり支援連絡会のことは部会から運営会議に報告する。

・こころのサポートガイドの改訂に際して、地域の社会資源として市内就労Ａ型Ｂ型の掲載を検討する。
・保険健康課より部会へ「みよし市自殺対策計画」に対する助言が求められ、今年度の部会で意見交換の時間を設ける。

記録作成者：はたらくサポートセンター　藤城

令和５（２０２３）医療的ケアさぽーと部会周知啓発 WG シミュレーション報告書

開催日時：令和５年６月１６日（金）10：00～11：30

作成者氏名：　キッズラバルカ　川北小有里

参加機関（参加者氏名）

本児・母・いきもの語り（水井氏・斎藤氏・古橋氏）・保育課：本松先生
防災安全課：　　福祉課：立石氏・キッズラバルカ：川北

シミュレーション内容

【スケジュール】
０９：５５　本日の説明
１０：００　「大規模地震発生！避難」母、避難準備
１０：１１　避難（自宅を出発し、総合体育館に徒歩で避難）
１０：２４　総合体育館２F ロビー着。
※実際配慮の必要な方は１F トレーニング室や卓球場となり、２F 剣道場等は一般避難者対象となる。１F の確認を行う。
１１：０４　総合体育館を出発
１１：１８　自宅着

その場で確認できた課題等

【準備】
・本児の荷物は全てベッド付近にあるが、ざっとあるものを詰めただけなので個数等不明確。
＊ティッシュやタオル類も準備をしておくとよい。
・母の荷物までは準備をしなかった。
＊水や食料は市から準備できる。タオルも体育館にあるため、使用できる。
・ベビーカーは玄関先にあるため、すぐに逃げることは可能。
・荷物が多いため、歩いて避難する場合はカート等を用意して片手で荷物を引っ張れるような状態にしておかないと母１人では困難。
【避難経路】
家から岡崎信用金庫三好支店までは平坦な道で、歩道も広く街路樹もまだ育っていないため安全。
岡崎信用金庫三好支店から総合体育館までは住宅街のため、木々もいくつかみられた。
実際避難となった場合は車が使用できる道路状況であれば、車で避難する。
【避難所】
総合体育館の２F ロビーは一般用。要配慮者は１F となる。
・災害時の非常電源はあくまで夜間照明のためのものであり、医療的ケアのある方への対応はしていない。
・１F はジム器具や卓球台等があり、避難する時には片付けるというが、実際よけるには人手が必要。
・１F に直接避難する場合は１F 出入口にいく（普段は職員のみ出入可能）が、避難することを知らないと開けてもらえない。
【その他】
雨でも暑い・寒い等天候に左右されることがあるため、雨なら合羽や暑い日ように保冷剤、寒い日ように保温できるものの用意は必要。

令和５（２０２３）年度医療的ケアさぽーと部会　第２回周知啓発 WG

開催日時：令和５年７月３日（月）
作成者氏名：　キッズラバルカ　川北小有里

参加機関（参加者氏名）
保育課：本松先生・いきもの語り：水井氏・防災安全課：池田氏・福祉課：立石氏 キッズラバルカ：川北
議題（協議事項）
周知啓発 WG 主催シミュレーションの振り返り
主な意見
【準備】 本松先生：家の中が整理されており、母がどこに何があるのか分かっていた。まずは子供の物が優先でお母さんたちの物は後から取りに帰ればいいと言っていた。服が入っていたかどうか未確認。 立石氏：荷物がいくつかに分かれており、両親がそろっていても手が塞がるほどの荷物であった。本児の栄養剤が３日分あったかどうか確認できていない。 『防災安全課より』 国や県からの支援は一旦 JA の駐車場に届き、各避難所に物資が届く形になるが、タイムリーに届けられるかは不明なので、推奨している３日分プラスα各自で準備しておくとよい。三好高校の近くに物資保管の倉庫がある。その中にはミルクやおしり拭きやオムツは備蓄している。計画上では職員が物資を運搬するが実際に来れる職員で対応するしかないため、人手不足は懸念される。 Q→オムツのサイズはどれくらい備蓄しているのか？ A→パンパースＳサイズ１箱、Ｍサイズ４箱、Ｌサイズ４箱、XL サイズ１箱、S/M ミックス１箱、L/XL ミックス１箱 池田氏：今回本児分しか対応していないが、両親も含め３日分プラスαの準備もいる。今回は取り合ず詰める形を取っていたが、事前に防災バック等準備をしておくとよい。 水井氏：お母さん１人で両親分も含めると１人で対応できない。すぐに持ち出せる準備は必要。 川北：家具の固定がされていなかった。市で補助があったかと思うがどうか？ 池田氏：６５歳以上と障がい（条件あり）の世帯対象に補助はあるが、昨年度上限が１５世帯。抽選となる可能性がある。 【避難経路】 本松先生：最短の距離だった。体育館前は傾斜があり、荷物とベビーカー両方１人で対応は難しい。１F であれば傾斜は少ない。 立石氏：体育館前の坂は気になった。岡崎信用金庫三好支店を渡ってからは狭い道もあり、車の行き来もあったので注意が必要。 池田氏：岡崎信用金庫三好支店の信号が停電の際、注意して渡っていただく必要がある。 水井氏：岡崎信用金庫三好支店を渡った後の住宅街が狭かった。とすると最短ではなくなるが大きな道を通った方がよい場合もある。 【避難場所】

本松先生：１Ｆのジム機器が実際動かせるのか。
立石氏：そもそも場所の確保ができるのか、衛生面の不安もある。
Ｑ：要配慮者はどれくらい（人数）を想定しているのか？　Ａ→想定はしてない。
池田氏：体育館自体、古く衛生面は問題。防災安全課からスポーツ課に避難所開設以来をかける。その時に必ずしも要配慮者の１Ｆが開設されるとは限らない。（実際には）
水井氏：トレーニング機械も地震で倒れないとは限らない。
川北：やはり電源の確保が問題。どこか市内で受けてくれる医療機関があるのであれば最初からそちらに行った方がいい。
Ｑ：ALS 等長寿介護課からそういった話はでないのか？　Ａ：今まではない。
【その他】
本松先生：近所の人の協力が得られるのか（隣の家の家族構成等）、地域の協力についても明確にするとよい。
立石氏：発電機の補助の申請がまだ出ていない。防災に必要な物品のリストを準備しておくとよい。（懐中電灯やモバイルバッテリー等）
池田氏：今回は避難訓練だったが、市として在宅避難を推奨している。
水井氏：色々考えないといけないことがあった。病院も拠点だけではなく、面的整備できるといい（クリニック等に協力を得る等）。
Ｑ：本児用の物品リストはある？　Ａ：水井氏が準備中。
川北：このことを基に、自主防災会に協力を求めるようにしていく。
Ｑ：自主防災会って何をしてくれる？　Ａ：行政区の安否確認や公民館等の管理。
〇電源の確保含め、課題がいくつかあったため、今後に向け防災安全課と福祉課含め一緒に考えていく。
【母】
・実際やってみて、１人だと慌ててしまい、準備もしんどかった。
・水が全然ないことに気づいたため、自宅待機であったとしても必要性を感じた。
・家具の固定もできていない。
・服は入れていかなかったので準備が必要。
・自分たちの準備もできていないことに気づいた。

決定事項（まとめ）

・母にもフィードバックし、やれるところ（発電機の準備やリストの物の準備等）から始める。
・周知啓発 WG で自主防災会に挨拶にいき、一緒に自宅訪問してもらい本児家族を知ってもらう。（９月）

令和５（2023）年度　医療的ケアさぽーと部会

第１回　医療的ケア児等コーディネーターWG　報告書

開催日時：令和５年５月29日午前10時から
記録者：相談支援OKサポート　堤

参加機関（参加者氏名）
しずく訪問看護ステーション：澤野氏　キッズラバルカ：川北氏 こども相談課：関根氏、早田氏　三吉小学校：狩野氏　相談支援OKサポート：堤

議題(協議事項)
１、部会運営目的等について　２、県のアドバイザーについて　３、コーディネーターの予算化について　４、北中学校で行われた病態在宅酸素説明会の振返り　５、研修・企画運営について　６、市内に在住する医療的ケア児の情報共有及び課題について ７、次回以降の日程調整・連絡事項等について
主な意見
今年度、関根氏がリーダー。ご指導いただきながらやっていく。今後、WG資料は事前にケアネットにあげていく。 **【１について】** （川北氏） 目的は変わらない。 目標①は昨年度と同様・②はみよし市民病院との連携・③はWGが中心となって取り組んでいく。 取組内容①はWくんが対象児、保育課本松氏、いきものがたり水井氏、防災安全課にも参加していただく。シミュレーションを行うことで、課題を広い、対策を練りたい。 取組内容②に関して、６月下旬までに福祉課と市民病院を訪問予定。 取組内容③に関して、WGは部会のエンジンとなり、その意識を持って取り組む。情報ガイドについては、訪問看護にも周知してもよいのではないかという意見が出ている(訪看しか利用していない方もいる)。 コーディネーターの役割に関して、昨年度から予算化を考えてきたが、難しい。再度役割を明確化する必要がある。 取組内容④に関して、すでに北中学校で研修を実施した。今年度はライフステージごとのコーディネーターが担当となり、研修を実施したい。 **【２について】** (澤野氏)今年度もアドバイザーを受託。アドバイザーは看護師、事業所経営者、相談支援専門員と職種も様々。県へ実績報告をした際に、協議会への参加はアドバイザー業務には入らないと言われた。部会はあくまで福祉課が主で行うもの、構成員である以上アドバイザーではない。役割に関して、県の中で検討していただく必要がある。 **【３について】** (川北氏)コーディネーターの予算化について昨年度から話し合いを行ってきた。幸田町、岡崎市、豊川市がコーディネーターに予算をつけていると聞いたため、積算根拠を確認し話し合いの材料とした。行政機関以外に予算をつけることができないかと考えていたが、相談支援専門員の仕様書を読むとプラスで予算をつけることは難しく、委託費

の内訳に関し検討の余地あり。市単で澤野氏にアドバイザーとして委託をすることができないかといった話しもでたが、県の仕様書をみると難しいため、一旦この話し合いは中止する。

【４について】

(澤野氏)北中に入学するナカノライキさんの病態について説明した。具体的な質問もあった。彼は将来看護師になりたいという夢があるが、それも見据え先生方に関わっていただきたい。他市では、先生に医療職が話をする場がないと聞く。受け入れていただけてありがたい。

(川北氏)本人に関わりのある先生とない先生で興味関心が違う。

(堤)温度差があるのは仕方がない。今後、何かあった時にふと思い出してほしい。

【５について】

（川北氏）

ライフステージごとに研修を企画したい。研修担当者が他者を巻き込みながら実施していけるとよい。

・0～6 歳の部分では、昨年保育の場面で保育士向けに医療的ケアの研修の話題が出たため、保育士、保健師向けにしてもよいのではないか。

・6～15 歳の部分では、以前養護教諭にコーディネーターを紹介した。養護教諭や特別支援コーディネーター向けにしてもよいのではないか。

・市内事業所や訪問看護への研修については、澤野氏と川北氏で検討する。

(狩野氏)小学校に入学するケースは保育士と学校の先生が一緒に話ができる場があるとよい。同時に澤野氏にも同席いただき、医療的な視点での話も聞けたらよい。

(関根氏)保育士はそもそも医療的ケア児ってどういう子かを知りたい。園長会は月 1 回、主任会が月 1 回ずつある。ただ、園長会は議題が多く、時間的な難しさがあるかもしれないが、そのような場で開催する場合、保健師も同席することはあり。

(澤野氏)豊田市で保育士向けに話す機会があったが、拒否的な印象を受けた。少しずつ先生方がやるべきことを理解してきている。会計年度の看護師を中学校区で園に派遣する、定期巡回しているケース、３号研修を受けた保育士もいる。東京では定期巡回と配置を上手に組み合わせ、対応していると聞く。

【６について】

(澤野氏)

・N

中学校に入学する。ほぼ休まず登校している。卓球部に在籍。イキイキ楽しそうに過ごしている。修学旅行後から自信がつき、やる気がでる。酸素を完結モードにすることを目標に翌日から挑戦した。今までは 4 時間半しか酸素がもたなかったが、完結モードにすることで 15 時間程度持つようになる。学校でボンベ交換する必要がなくなる。学校でボンベ交換する必要がなくなると訪問看護が入る必要性もなくなるが、本人が新しいことが苦手なタイプのため、夏休み頃までは今まで通りに入る。夏休み以降については、本人と相談する。学校への訪問回数を減らし、先生の不安を聞く場にする。また自宅でボンベ交換の様子を見るように訪問看護の利用に関して変更していく。高校進学に向け、取り組んでいく。

・S

修学旅行に同行。

・K
学校のオストメイトトイレを気にいったことで、外出先でも自分でできるようになる。訪問看護の回数も減らすことができるだろう。徒歩で通学。宿泊合宿が次の目標。行かないと言うが行くだろう。母子分離の機会になるとよい。パウチ交換が難しく、現在母しかできず、看護師でもできるように練習中。ただ、看護師ができるのではなく、自身でできるようになることも中学校 3 年間の目標。あいち小児で夏休み期間中に教育入院し、自立を促せないかと支援者で検討中。排尿はオムツを使っているため、便器に座る経験がない。排泄物は便器に出し流すものと少しずつ理解し、自宅でもできるようになる。前回の入院時に、母の付き添いが必要だったが、姉のこともあり、次は一人で入院すると言っている。オストメイトトイレの件でかなり成長した。
・S
ケアに関しては問題ない。祖父の認知症が進み、母の負担が大きい。担当者会議を実施。
・I
プラダーウィリーは否定されたが、ベースに何かあることは間違いない。知的の部分も何かありそう。まだまだ呼吸器の使用は続く。豊田市こども発達センターの話はまだ出ていないが藤田 HP に確認が必要。母、やっと他児と違うことに気づく。知りたいという気持ち。父は少し遅いだけで認めたくないという気持ち。移動時の 30 分程度の時間であれば呼吸器は不要。
・S
褥瘡あり。訪問看護介入。医療的ケアは問題ないが、レスパイトの必要性を母親が感じ、三河青い鳥へ。妹は緑丘小学校に入学。
・O
訪問看護介入なし。マムに依頼したいと母より連絡があったが介入できていない。学校と家族で相談する。炭水化物の量をカウントする教育を受ける必要がある。中学に上がってからの課題。あいち小児で教育入院することが必要かも。
(川北氏)
・S
高校進学に向け会議。澤野氏も参加。進路に関して、名古屋と岡崎の聾学校、三好高校、聖カピタニオ高校を見学した。本人の実力等を考えると普通高校は難しいのではないか。本人の希望もどちらかの聾学校。本人と定期的に面談しているが相変わらず友人と話さないと聞く。6 月 30 日に顎を整えるオペのため入院予定。
・W
シミュレーションを実施する。児童発達支援事業所で and カイトといきものがたりを見学。and カイトを週 5 日希望するが一事業で対応することは難しい。2 事業所利用予定。
・T
たんぽぽに通園している。ストーマを使用。母が双極性障害。本人が落ち着いているため、母も落ち着いている。年長になったら父の実家の一宮市に転居予定。
(堤)
・H
年長になる。小学校入学に向け準備していく。
(狩野氏)

特になし。
(早田氏)
・I
5月25日に訪問予定だったが変更。見守り訪問。ケアあるため、保健師訪問時に早田氏も同行。
・H
2歳9か月。水頭症。子どもの状態は変わらない。訪問看護は藤田ＨＰと虹色。母、マクドで働き始めた。東名古屋病院のレスパイトを利用しているが予約が取りにくいため他にないか。相談支援専門員は深田氏。
・S
入浴時以外酸素を利用。1歳6か月。夏頃に酸素が外れるかもしれない。令和6年からキッズハウスに通いたい。
・T
ダウン症。母、5月に3人目を出産。そのタイミングに本人も入院した。現在も喘息で入院している。体調が安定しない。預け先の確保が課題。両親の理解力も低く、家庭支援が必要。母、注入の方が楽で、経口摂取が進まない。母、基本的に自分にメリットがないと判断すると介入を拒否。
・T
11か月。低体重児。呼吸器をつけていたが、外れた。1歳半健診頃まで訪問看護を利用し、経過確認する。
・O
酸素が外れ、ふたばに通園開始。
(関根氏)
・W
保育園もあきらめず、8月頃見学予定。課題としてはレスパイト(宿泊伴うもの、伴わない)。
・A
9月に母仕事復帰したいと言う。酸素使用。保育園の入園が難しいかもしれない。児発の利用も検討。

その他

(澤野氏)本人が医療機関に受診する必要があったが、兄弟児を預ける先はなく父の帰宅を待って受診したケースがあった。訪問看護は当事者を預かることはできるが兄弟児を預かることはできない。他市町で同様のケースがあった場合、どう対応しているのか。
→他市町の状況を各自で情報を得て、次回報告する。
・愛ケアライン - ケア児の親の会を紹介して欲しい方がいたら澤野氏まで一報いれる。
・狩野先生はケアネットが見れないため、メールで情報共有を行う。
・次回WG令和５年８月21日10：00からふれあい交流館１０１会議室

令和５年度　みよし市

医療的ケア児等コーディネーターの役割

みよし市障がい者自立支援協議会
医療的ケアさぽーと部会
医療的ケア児等コーディネーターWG

医療的ケア児等とは

・人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児

・重度の知的障害と重度の肢体不自由が重複している重症心身障害児者

医療的ケア児等コーディネーター養成研修資料（厚労省）抜粋

医療的ケア児等コーディネーター養成研修受講対象者

この研修でいう「医療的ケア児等コーディネーター」は、医療的ケア児等の支援を総合調整することになります。このため、研修受講の対象者は、主に相談支援専門員、保健 師、訪問看護師等を想定しています。 また、この医療的ケア児等コーディネーターには、医療的ケア児等に対する専門的な知識と経験に基づいて、支援に関わる関係機関との連携（多職種連携）を図り、とりわけ 本人の健康を維持しつつ、生活の場に多職種が包括的に関わり続けることのできる**生活支援システム構築のためのキーパーソン**としての役割が求められています。

医療的ケア児等コーディネーター養成研修資料（厚労省）抜粋

医療的ケア児等コーディネーターに求められる資質・役割

・医療的ケア児等に関する専門的な知識と経験の蓄積
・多職種連携を実現するための水平関係（パートナーシップ）の構築力
・本人中心支援と自立支援を継続していくための家族との信頼関係づくり
・医療的ケア児等の相談支援業務
（基本相談、計画相談、ソーシャルワーク）
・本人のサービス等利用計画（障害児支援利用計画）を作成する相談支援専門
・本人のサービス等利用計画（障害児支援利用計画）を作成する相談支援専門員のバックアップ
・地域に必要な資源等の改善、開発に向けての実践力

医療的ケア児等コーディネーター養成研修資料（厚労省）抜粋

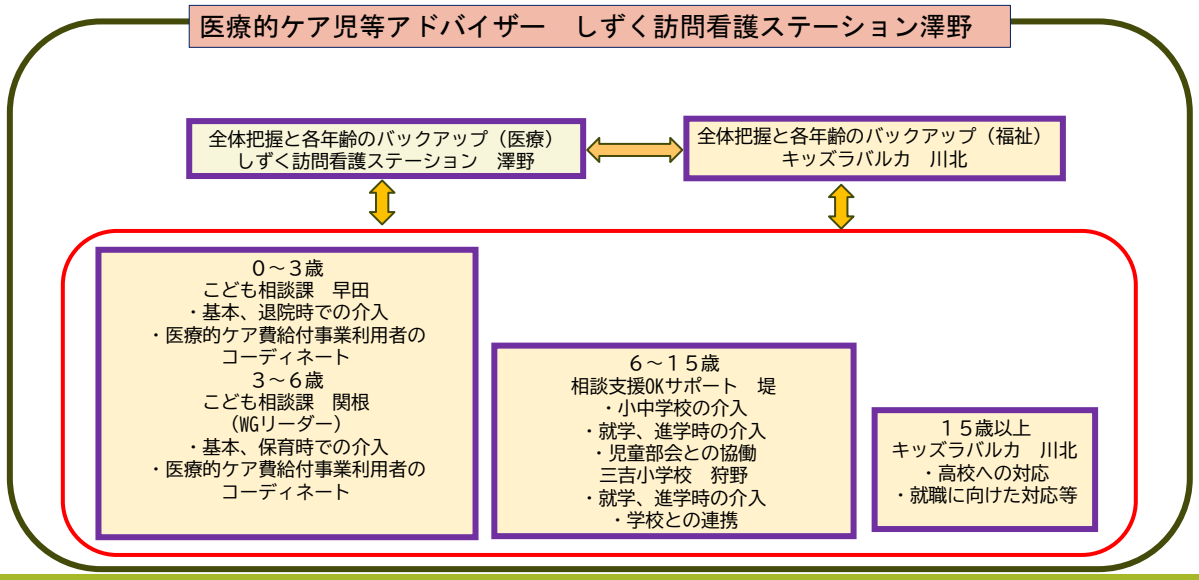
みよし市
医療的ケア児等コーディネーターの定義

人工呼吸器等の医療的ケアを持ち、医療機関を退院される方の環境調整やサービス調整を行う。また、医療的ケア費給付事業利用者を対象に、本人を中心に安心安全な保育・教育を受ける環境を提供できるよう調整する者をいう。

みよし市
医療的ケア児等コーディネーターの求められる役割

- 各機関（医療・福祉・保育・教育）との連携
- 退院前の環境アセスメントと退院時のカンファレンスの参加
- 就学、進学時のカンファレンスの参加
- 地域課題の集約と資源改善、開発
- 保育士、幼稚園教諭、学校教員向け学習会協力

医療的ケア児等コーディネーター配置図



みよし市
医療的ケア児等コーディネーターWGの役割

WG年４回開催

- 各ライフステージの現状把握を行い、課題の集約を行い医療的ケアさぽーと部会へ課題をあげる。
- コーディネーターの役割について検証を行う。
- 各ライフステージごとに研修会を開催し、医療的ケア児等の周知啓発及び、スキルアップ・ブラッシュアップを行う。

令和５（２０２３）年度医療的ケアさぽーと部会
情報ガイド打ち合わせ報告書

開催日時：令和５年６月１３日（火）
作成者氏名：　キッズラバルカ：川北小有里

参加機関（参加者氏名）
オンリーワン：古川氏　キッズラバルカ：川北
議題（協議事項）
今年度の動きの確認
主な意見
・昨年度５か所の医療機関に周知にいった。豊田市は今年度、配布数や活用度を調査してはどうかと話しがあった。 ・評価は必要だが、配布数を知る必要があるのか不明。そもそもNICU等を退院する前に地域に戻った後の相談先が明確になっていること、利用できる資源を知ってもらうことが目的で各市のHPにアップされており、リーフレットを作っているわけではない。 ・必要な人に届けられているのか知りたい。 ・各医療機関の相談室にこの情報がいきわたっているのか知りたい。 ・退院後、訪問看護しかつながっていないケースも多いため、この情報ガイドを訪問看護に周知してもいいのではないか。 ・今後、圏域でこのまま作り続けるのか各市の強みを活かした情報ガイドにするのか考える時期にきたのではないか。 ・みよし市では情報ガイドを製本にしたい。
決定事項（まとめ）
○今年度の取組として、訪問看護に周知する機会を得る。 ○昨年度周知した医療機関に古川氏から電話で配布の状況確認を行う。 ○令和６年度は各市で情報ガイドを作成する。

令和５年度医療的ケアさぽーと部会教員対象研修会　報告書

開催日時：令和５年４月１２日（水）１５：３０

記録者：キッズラバルカ　川北小有里

参加機関
三好中学校教員３０名若　医療的ケア児等コーディネーター（講師含む）４名
目的と実施内容
○医療的ケアさぽーと部会取組④と教員向けの研修会を学校教育課（主催）と協同にて、医療的ケア費給付事業利用者の学校教員対象で研修会を開催する。 【目的】当該生徒が安心して中学校生活を送ることができるように、当該生徒の障がいの症状や必要な対処方法等を理解し、情報共有することで、学校全体で支援していく体制づくりを構築する。 【実施内容】 （概要） 当該生徒は令和５年度北中学校に進学。心疾患で在宅酸素使用し、訪問看護が学校訪問に介入中。 ・医療的ケア児とは ・在宅酸素の使用にあたり注意点等
感想等
中井先生より 当該生徒の自立していくためにどう教員が支えていくのか、特別視する必要はない。在宅酸素の二次災害的なものは注意が必要。担当教員だけで抱えていく問題ではなく、一緒にシェアして支えていくことがこの会の目的である。自分は関係ないから知らないではなく北中学校として支えていくこと、彼らが卒業後まで見据えられたらいいなと思う、やっていくうちに分からないことがでれば私にでも、担任にでも言ってくれればすぐに対応していく。

追加資料１

令和５（2023）年度　第１回児童部会 会議録

開催日　令和５年７月４日（火）
時　間　15：00 ～ 17：00
場　所 みよし市市役所 401 会議室

参加機関（参加者氏名）

相談支援地域アドバイザー（坂田氏）、こども発達センター（堀氏）、三好特別支援学校（内田氏）、豊田特別支援学校（伊藤氏）、豊田加茂福祉相談センター（大河内氏）、ベル三好幼稚園（村上氏）、こども相談課（関根氏、田上氏、松田氏）、学校教育課（大成氏）、親子通園ルームふたば（伊藤氏）、児童発達支援事業所よつば（花岡氏）、福祉課（清水氏、立石氏）、相談支援 OK サポート（堤氏）、相談支援事業所わらび（熊谷氏、森田）

議題（協議事項）

（1）令和５年（2023）年度の障がい者自立支援協議会について
　　組織図、協議内容など
（2）児童部会の運営について
　　児童部会の経緯、運営目的等の確認
（3）自立支援協議会主催の研修について
（4）今後のスケジュールについて

主な意見

（1）令和５（2023）年度の障がい者自立支援協議会について

・福祉課 立石氏から組織図と協議内容について説明。
資料１参照。

（2）児童部会の運営について

≪児童部会の経緯≫

・福祉課 清水氏から児童部会の経緯について説明。
資料２参照。

≪運営目的等の確認≫

・堤氏から運営目的について説明。
運営目的から発達が気になる子のアンケート、みよし・つながりシートについて詳細を説明。

～「発達が気になるお子さん」に関するアンケートについて～

・資料４に差し替え。

（堤　氏）：発達が気になる子の実態調査の助言から、今年度の取組みにアンケートを反映した。ＱＲコード、ＵＲＬを乗せて手軽にアンケートがとれる方法を導入。本松氏の協力により市内園に展開していく。
アンケートを回答する基準が明確ではないが、以前豊田市が行った発達の実態調査などを参考に「発達が気になる子」のアンケートにより実態を調査していく。

（花岡氏）：問８、９、13、複数回答とあるが「1 つだけ回答」という文章になってい

る。

（伊藤氏）：問２、「何歳」とあるが、何歳児で統一した方がクラスで分けて考えられる。発達が気になる子は診断名がついてなくていいのか？　診断有無で問 3、4、５に分かれるのか？

（大成氏）：発達が気になる子は先生個人の見立てになるが、アンケート回収率はどうか？

（熊谷氏）：今回初めての実態調査となり、一度調査してアンケートの課題が浮上してくると思う。

（堤　氏）：豊田市が発達調査を行ったアンケートを参考にしながら作成している。その中に少し具体的な項目もあったが、今回はざっくりとした項目にし色んなご意見をいただきたい。

（松田氏）：発達が気になる子の関連項目の流れがあって、アンケートの途中で発達が気になる子の流れが切れてしまうところがある。例えば「発達が気になる子はいますか？その子は〇歳で、診断名がついていますか？」の文章の方が診断の有無が分かりやすい問いとなる。

（田上氏）：同じ保育園でも保育に携わっている先生は多数いるが、同じクラスを何人の先生で見ているかで色んな回答が出てくる。または違うクラスは一人の先生のみの回答となると平均した結果に違いが出る。

アンケートに保育園名と名前の記載は難しいか？

（花岡氏）：保育園名まで入れてしまうと、対象としている子の特定に繋がってしまう可能性がある。保育園名を記入すると保育園によってはアンケートに対して抵抗が出てしまう園が出てくる。

クラスの児童人数で保育士は担当制に分かれているので、保育士さん全員に回答してほしい。主担の先生が回答する場合もあればグループ担当して回答する場合もあって、全員が重ならないように網羅したらいい。

（堀　氏）：豊田市の調査では担任に限らず園によっては一人の先生が回答して出している園もあって園単位で回答している。

（熊谷氏）：アンケートは全員を網羅する趣旨を示し、発達が気になる子が重ならないよう一筆記載していく。

（村上氏）：発達が気になる子は複数いる場合、問４、問６はどう書くか。

問５のように保育する中で困りことがあるかないかは、困るに当たらない子もいる。

0、1、２歳の成長段階では医師でも診断名がつかないくらい難しい。ダウン症や肢体不自由の子なら 0、1、２歳でも診断名が付く。

選択肢が「一つだけ」は、回答者によって困り事をしぼるのは難しい。

（堤　氏）：Google フォームを利用すると「1 つだけマークしてください」が自動的に印刷時に出てきてしまう。作成時の難しさが出てきた。

（熊谷氏）：Google フォームのアンケートではなく、紙ベースのアンケートでも可能か？

協力が得られるか。

（花岡氏）：Google フォームのアンケートが難しいように、回答者も答えることが難しいと思う。

（大河内）：対象が０、１、２歳児は難しい。診断名がついているのはダウン症の子で、その時期は母親が子育てをしっかりしている時期であり、問 3 がいらないのかなと思う。

（伊藤氏）：０、１、２歳の年代は環境なのか愛着なのか？と思うことはあり、判断は難しくなる。

（熊谷氏）：問３の回答で割合がわかると思う。診断がついていない子や診断がついていてやっぱり問題になると思う。

問３があって問５と比較できるようになるといいのか。

（伊藤氏）：グレーゾーンの子は学年が上がることによって、お話ができにくくなってきたという実例がある。問 9 は記載しにくく、問題が進むにつれて問題が複雑になってくる。発達が気になる子が複数いるとなると問 9 の回答が答えにくくなる。

問６の記入の答えるのに困る。

（熊谷氏）：今回のアンケート実施について要検討としていいか。

（内田氏）：三好特別支援学校内で Google フォームを使ったアンケートをやってきた。回収や集計が簡単。自由記述は集計時の手間となる。自由記述より項目を入れて選択式はどうか？

問 11、問 12 は、問題としているのか、問題としないのか、どの程度問題解決になっているかの割合で困っていることがわかる。

研修は必要なのか。キャリアによって違う。経験年数やキャリアによって必要としている研修が分かる。

（堀　氏）：アンケートの目的は何か、足りない問は何か？　問 8、9 をしっかり聞かないと幼児クラスと違ってスクリーニングが難しい。保護者との連携が取れないのか？項目をしぼれるといい。アンケートによって、今後の新しい保育士さんの課題が分かる。問８のスクリーニングは難しい。

（熊谷氏）：大幅に修正をしていく。

～みよし・つながりシートについて～

（熊谷氏）：なぜみよし市にリレーシートを作ろうとしたのか。ママの負担軽減につながる。情報の錯綜が少ない。

（堀　氏）：豊田市はリレーシートがない。4，5 年前、中学校の特別支援教育のコーディネータからのヒアリングで、小学校から中学校の引継ぎ業務が多く、先生たちによって評価と基準が変わる。小学校は行動面を重視しているが、中学校の先生は成績重視し、中学校から高校は幅広くなるので、評価が多様となる。情報を引き継いでいくことは大事となる。

（内田氏）：小学校から中学校の引継ぎは情緒面や思いがメインとなる。知多市はつながりファイルと呼んでいるが、中学校から高校への引継ぎが難しい。支援計画は親御さんに同意をとっていくことで、高等部は移行支援計画を本人の願いとして渡すことができる。グレーゾーンが漏れている。障害が重い児童の引継ぎはできていても、グレーゾーンの児童は支援が途切れたり、また穴となる。

（伊藤氏）：みよし市の小学校は、つながりシートで事前準備ができる。支援学校では

発達センターでどういうことをやっていたかと知ることができる。小学校から中学校の引継ぎがあったらうまくいく。本来、得意不得意は誰にでもあり、シートがない子が「僕も苦手なことがあるよ」と言われてハッとした。シートが無い子ある子で分かれて特別感という壁がある。うまく自分の事を伝えられない子に利用していくといい。

（大河内氏）：リレーシートによって親の負担が減らせる。デメリットは先生の負担がある。グレーゾーンの子が対象となれたらいいと思う。最終的に成人期は自分でシートを管理する事となったら、本人に知られたくない情報がある場合はどうしたらいいか。

（村上氏）：シートを記入している立場である。昨年度は市内の子はシートを５枚作成した。他市町村は ８ 人と多かった。診断名が出ている子は明確で、診断が出ていない子も書くケースが多い。小学校でサポートできるようにと保護者に説明をしている。小学校の先生も支援計画を書いている。グレーゾーンの子ほど保護者の理解が難しい。園長会の時の話題で、中学校で色んな問題があり、今中学校の問題から下を探りたい、成育歴を知りたいと毎月のように、園、小学校、中学校の情報共有をしていこうと取り組みを始めた。3、４年生で診断が出る子が多く、園までに掘り下げていくことで本人のサポートに繋がる。

（田上氏）：小学校の先生という立場なら、シートがあることで事前に支度ができる。保護者にしても周りの人にいっぱい知ってほしいと思う人がいる。ただ、グレーゾーンの子の保護者は周りに知ってほしくないと思う人がいる。

（松田氏）：保護者が子どもの症状が伝えられるといいと思う。シートはメリット・デメリットがあるが、誰を対象とするかグレーゾーンの子に対しても利用するか利用しないかも検討が必要。

（大成氏）：６月に就学相談に来た方が 46 名。その内 2/3 がグレーゾーンの子と見ている。年々シートの理解度が上がってきた。シートにより個別の支援計画の作成をしている。対象は誰となるのか。個別の支援計画とは違うので ２ 本立てとなるのか。シートが必要となれば何が必要となるか。

（伊藤氏）：保護者の知識が上がってきていると感じる。経験を重ねると思い返すことがある。小さい頃携わってきた子がその後将来どうなっていくのかなと思うことがあって、見た時に自分の支援が何か手掛けたかなと思える。シートは長い間色んな先生が携わっていくので、あったらいいなと思う。他人任せにせず、園全体でも小さい頃から保護者を巻き込んで情報を共有していきたいと思う。小さい頃の支援が将来的に生きていたのかと思うこともあり、今後の事例として生かすことができる。

（花岡氏）：サポートブックが 10 年前に流行ったことがある。ターゲットをどこにするかが難しい。乳幼児期や幼少期は保護者の受け入れが難しく、よつばに来る子はターゲットではないのかと思う。軽度の子が役に立つのなら、作ることで将来が明るくなるシートを渡してあげたいなと思う。最後、シートが誰のもとにいき、字が読めるようになってシートを見て不安をあおるようになってはいけないと思う。労力を使って作成するのならやっぱり一番は本人のためになるように。

以前保護者面談にて、お子さんの様子を聞いた中「お子さんの良い所は？」の問いに保護者が答えられず母親が泣けてしまったことが衝撃的だった。一宮市のシートに「この年の思い出」が書けるといいなと思い、その当時の父母の思いが子に知れるのも、親として子を語れて思い浮かぶことができるのも大事だと思う。

（熊谷氏）：「本人のため」はぶれてはいけない。

（坂田氏）：豊田市の消費者センターの窓口に心が病んだ人がいっぱい来る。生きづらい世の中になっていて、障がいではなくても働きづらい人が多くなっている。働けない、引きこもりなど含めた人達が豊田市の指標でいうと 42 万人の都市に５万２千人いる。そういう人達が成育歴を見て気付けるか、自分で気付きを持たなければならない。シートも気付きをして活用できるかもしれない。教育支援計画をもっと有効利用してツールとなればいいと思う。それが強みとなればいいと思う。

（熊谷氏）：色んな意見が出て、もっと検討していかなければならない。この１年間で事務局で煮詰めていく。

～「語る場」について～

・保護者支援としての語る場について色んな意見を聞きたい。
・近隣の市町の語る場の見学は実施していく。
・ふたば、よつばの保護者に直接の意見を聞き、参考にしたい。

（3）自立支援協議会主催の研修について

・発達センターの協力のもとで研修に取組む。１回目は実施済。２回目に８月に 1、2 歳児の発達支援について研修を行う。昨年度から始まった出前研修として事例検討を行っていく。今年度の実施の日程は未定だが、今年度も行っていく。

（4）今後のスケジュールについて

≪児童部会開催日≫

・第１回　７月４日 15 時～
・第２回　11 月７日 15 時～
・第３回　３月５日 15 時～

決定事項（まとめ）

・「発達が気になる子」のアンケートについて、内容・目的を見直す。
・みより・つながりシートについて、今年度通して必要性を検討する。
・「語る場」について、近隣の市町の語る場の見学を考えている。日時確定後、メールにてお知らせし見学を実施する。

記録作成者：相談支援事業所わらび　森田亜由子

追加資料２

令和５（２０２３）年度　第１回医療的ケアさぽーと部会　報告書①

開催日時：令和５年７月１４日（金）１０時から１２時
作成者氏名：　キッズラバルカ　川北小有里

参加機関（参加者氏名）
愛知県衣浦東部保健所：増田氏　豊田市こども発達センターたんぽぽ：吉川氏 豊田特別支援学校：山口氏・みよし市民病院：阿部氏・NPO 法人いきもの語り：水井氏 しずく訪問看護ステーション：澤野氏・愛知県三河青い鳥医療療育センター：石黒氏 こども相談課：早田氏・学校教育課：長谷川氏・保育課：本松氏 福祉課：清水氏　立石氏・キッズラバルカ：川北
議題（協議事項）
１　あいさつ ２　報告事項 （１）　令和５（２０２３）年度障がい者自立支援協議会について（資料 No1） （２）　令和４（２０２２）年度事業報告書（資料 No２－１）と令和５（２０２３）年度運営目的等・年間計画（資料 No２－２） （３）　医療的ケア児等コーディネーター報告等（資料 No３） （４）　周知啓発 WG（資料 No４） （５）　令和４（２０２２）年度事例検討ケースの経過報告 ３　医療的ケア支援体制の動向について（意見交換） ４　その他
主な意見
１　あいさつ（福祉課） ・障がい児福祉計画の中で協議の場の設置が義務付けられており、この部会が協議の場として位置付けられている。部会での意見や提案の内容は運営会議に報告があり、市への提案もあるため、貴重な場としている。 ２　報告事項 （１・２）資料参照 （3-１）医療的ケア児等コーディネーターWG（早田氏） ・昨年度受講した三吉小学校教頭の狩野先生にも参加いただいている。 ・今年度は各ライフステージで研修を行う。（０～６・６～１５歳対象の支援者） ・市内在住の医療的ケア児等の情報や課題を共有している。第１回目で課題としてあがったのは受診の際の兄弟児の問題があがった。 （3-2）今年度の体制について（川北より報告のみ） （3-3）北中学校教員向け勉強会報告（澤野氏） ・心臓疾患の構造や他者との違い、注意すべきことや合理的配慮について中心に説明を行った。具体的な質問があがったことや連携先である訪問看護があることを知ってもらう機会となった。受け取り方は様々だが、どちらかというと前向きに捉えてくれていた。 ・北中学校に確認し、学校現場として子供たちを預かっているため安全に安心に自宅に返すことが一番。医療的ケアのある児童生徒に対し、どのように接するといいのか、いざという時にどうしたらいいのか専門的なところを説明していただいたり、具体的な場面の説

明もあったため、ありがたい。緊急の対応も連携先が分かっていることもありがたいと思っている。（長谷川氏）
（３-4）豊田市協議会との打ち合わせ（川北）
・医療的ケアがある方の情報ガイドを令和６年度は各市で作成することになった。
Q：市民病院に質問。医療的ケア児等だと、どこに相談に行けばいいのかまとまっていない。医療機関としてこういう情報があるといい等、意見が欲しい。
A：高齢分野だと相談先が地域包括支援センターと分かりやすい。障害分野だと障害種別や年齢で分けられていない。（阿部氏）
・シンプル、分かりやすさが大事。（澤野氏）
（３）愛知県医療的ケア児アドバイザーについて（澤野氏）
・愛知県のみアドバイザーを配置。各圏域で配置されているが、アドバイザーは看護師や相談支援専門員等。役割としては会議参加や助言等。派遣する場合は西三河青い鳥石黒氏に連絡をする。
Q：西三河青い鳥に質問。この西三河圏域の活動やみえてきたことがあれば伝えてほしい。
A：西三河青い鳥としては、ご家族ご本人の専門的窓口になっており、岡崎市や幸田町だと連絡もあるが、豊田市みよし市はほぼない。みよし市のご相談があれば、コーディネーターにつないでいくことになる。中核市と手の届きやすい市町との課題は異なる。今年度、医療的ケア児支援センターとして愛知県の全ての医療的ケア児とその家族の支援ネットワーク構築事業を開始していく。そのため、医療機関との連携や福祉総合相談窓口（ふくしの窓口）にお願いしていくことになる。（石黒氏）
Q：実際、岡崎市や豊田市や幸田町やみよし市のような自治体規模が違うところでのやりづらさはあるかどうか。（清水氏）
A：規模の大きな自治体は、実数把握ができていない。例として知的障がいを伴わない医療的ケア児は地域で埋もれたまま保護者が頑張っている。見えていない課題があると思う。（石黒氏）
Q：本市だと医療的ケア児等コーディネーターを受講した者をコーディネーターとして各ライフステージごとに配置し、把握しているが他の市町がこういうやり方で把握している等あれば教えてほしい。（清水氏）
A：みよし市はモデルのようにされている。把握の一番初めは医療機関。（石黒氏）
Q：医療的ケア児の窓口として福祉総合相談（ふくしの窓口）として伝えたが、NICU からはこども相談課にも連絡がいくが、医療的ケアの相談はこちらにくるのか区別はあるのか？（清水氏）
A：ケースによるが事前に退院カンファの依頼もある。酸素のみのお子さんだと連絡票のみの場合もある。（早田氏）
A：医療機関が双方に出すのか、種類が違う書類になるかと思うがどういった分量のものを出してもらうのか、まだ不明。一覧表を作成してもらうことをお願いする。（石黒氏）
Q：今の話題だと未就学児。転入や中途の場合はどうするのか？（川北）
A：外来でそういった方がいる場合も対応できるようにする。（石黒氏）
Q：WG での個人情報の同意は取っているのか。リスト化される方には名前は載せないので必要ないが、カンファレンス等や市の体制作りのためのものは同意を取っていく方向性になっている。同意は市でお願いすることになる。（石黒氏）
A：WG の同意は取っていない。相談員が介入している場合は同意を取っている。（川北）

（４）周知啓発 WG（水井氏・本松氏）
・防災安全課との打ち合わせ報告書の報告（水井氏）
・シミュレーションは天候にも恵まれ、無事開催できた。事前準備なしに行ってもらい、総合体育館に避難し、要配慮者は 1 階だと聞き見に行くが、実際器具等あり困難さを感じた。実際みて、分かったことも多かった。（本松氏）
・振り返りを行ったが、電源の確保や荷物の準備なども課題が多くあがった。（本松氏）
Q：福祉課に質問。個別避難計画はどうなっているのか？
A：要配慮者のリストは一覧になっている。本人同意の上、自主防災会や尾三や民生委員に情報が渡るようにしている。（同意がなければ情報は開示されない）計画は自主防災会が本人と一緒に作成することが望ましいが、各行政区による。今年度自主防災会あてにワークショップを開催することになっている。（清水氏）
Q：リストの開示について、熊本の災害の際に医療職のネットワークで必要物品を送ってくれたりすることがあった。教えてほしいと私がいった場合開示できるのか。（澤野氏）
A：即答はできないが、事前にそういったことを想定しておくことも必要。（清水氏）
Q：計画は福祉課にあるのか？（増田氏）
A：自主防災会が主体。作ったら福祉課にお願いしますと伝えているが更新等のチェックまではしていない。ファイリングはしている。同意している人が 600～700 人で計画は１～２割程度。（清水氏）
（５） 事例検討ケースの経過報告（川北）
・母の仕事の都合で、まだ復職できていない。保育園には入園したいと希望。
・保育園での受入をしたことがないため、不安が強いが怖がることではないと前回の時に言われた。保育士向けの研修も検討してくれているがシミュレーションをしたい。近隣市町村は受入が始まっていて、色々聞くので見に行くのもひとつ。受入先の園が慎重にはなっているので知ってもらえたらと思う。（本松氏）
３　医療的ケア支援体制の動向について（意見交換）
報告書②参照

決定事項（まとめ）

次回、令和５年１１月１日（水）１０～１２時　みよし市役所２０１会議室
〇次回、今回の意見交換について各機関でどういった話しをされたのか、自分たちにできることは何かを持ち寄りたいと思います。宜しくお願い致します。

令和５（２０２３）年度　第１回医療的ケアさぽーと部会　報告書②

開催日時：令和５年７月１４日（金）１０時から１２時
作成者氏名：　キッズラバルカ　川北小有里

３　医療的ケア支援体制の動向について（意見交換）

澤野氏：アドバイザーとして、教育関係の相談事が多くなっている。支援法ができ２年若が経つが、医療・福祉・教育の概念の差を感じ、様々な会議に参加し横の連携ができていないように感じる。困りごとがあれば教えてほしい。
山口氏：保護者にケアの負担をかけてはいけない努力はしている。ただし、学校の医療的ケアは日常的に安定している子たちが勉強できるためのケアなので、体調不良の場合は安全を取らないといけないので保護者との考えの差がある。今話題となっているのは、泊を伴うところで夜を経験していない看護師だとハードルが高い。他県等ですでに取り組んでいる学校の看護師以外で契約しているやり方もあると聞いている。
澤野氏：現状、移行期で耐え時なのかもしれない。学校や園のことも分かるが、やっていかないといけない中で、夫々がみえている景色を共有するところが大事。
長谷川氏：普段の関わりの中での不安はないが、エピペンが言われ始めた時もそうだが、研修を受けているが、いざとなった場合にできるのか、いつもと違う動きになった場合の不安は強い。今年、三好中学校にオストメイトがついたことで、看護師とパウチの交換をしたりして自信がついた。本人たちにあった設備も必要なので早めに教えてほしい。
本松氏：園はこれから。年齢が低いため、安全面も重要。
澤野氏：この子の夢や希望が叶うように、私たち大人が、何ができるのか話し合えるとよい。園の先生や学校の先生と保護者の話し合いの中で主語が子供でなくなる時がある。みんなで連携を図ることが必要。
長谷川氏：本人が体調等の面で、いつもと違うところが説明できない不安感がある。
澤野氏：親が本人のことを察知して伝えてしまうため、医療的ケア児の母子分離が課題。
吉川氏：たんぽぽが 40 名中 17 名医療的ケア児。人工呼吸器の子が４名で種類も増えている。電源問題だが、ポータブル電源とガスの発電機と送迎車があり様々なデバイスの使用は可能だった。業者に協力を得ることもひとつ。児童福祉法の改正も次年度あり、児童発達支援も過渡期。行政説明も随所に行われており、ヒアリングも始まっている。医療的ケアのお子さんの報酬改定も声があがっており、学校への通学や児発の利用時の移動支援の利用についてもやっと出てきた。
澤野氏：災害時のところで、実際私たちは行政に求めてしまうと思うが、県の保健師と市の保健師との連携等あれば教えてほしい。
増田氏：保健所は難病と小児慢性が対応するところ。人工呼吸器や在宅酸素のような命に直結するようなケースの個別支援の一環として災害の支援計画を作成している。作成する上でケース会議をする際、福祉課や早田氏に協力を得ることはある。そこでの連携や関わりはある。
早田氏：訪問時に災害の時の相談はある。市の保健師として中学校区に応急救護所が開設されるので、年１回は訓練がある。各担当の保健師が薬剤等のチェックをする。個別に保健師が計画を立てていないので、保健所と一緒に訪問し共有できるとよい。
澤野氏：キャンナスという看護師のボランティア団体が災害の協力もあった。
川北：人工呼吸器を使用している方がどこに住んでいるのかマッピングしていたかと思う。
増田氏：新型コロナの関係で全数把握は難しかったが、人工呼吸器や在宅酸素の方のマッピング

はしている。常時と体調不良時等、ランク付けもできている。
澤野氏：いきものの福祉避難所はどういう役割なのか？
水井氏：協定締結したが、まだ具体的に決まっていない。プロパンの発電機はある。福祉避難所としてもどういった方を受け入れればいいのか、実際は利用者。施設の中にどれくらいの人数は入れるのか等これから。
澤野氏：どこに誰がいるのか把握が難しい。LINE が役立ったと聞いている。市民病院は電源を貸すことは可能なのか。
阿部氏：病院なので、実際は傷病者が優先。来られた方がいれば、必要に応じて対応は可能。ただどれくらいの方が必要なのか、準備が必要。
澤野氏：近隣のクリニック等（透析があるようなところ）でも協力を得られるとよい。豊田特別支援学校はどうか？
山口氏：豊田市の避難場所にはされていない。医療依存度が高い人は豊田厚生病院に協力を得ることになっている。
澤野氏：熊本の災害の時には、特別支援学校が避難所のようになり、一般の人も来て、避難した人がいくところがなく学校が開けず、子供たちは家におり家族が疲弊するようなこともあった。
石黒氏：三河青い鳥も福祉避難所に指定されている。母子入所の部屋が５部屋あるが、避難された方の中から必要な方が振り分けられる。
川北：防災安全課との打ち合わせの際、先ほどの阿部氏の話ではないが実際にどの地域に何を必要とする人がいるのか作成してもいいかなと思う。そういった際、協力を得たい。現状、２４時間呼吸器の方は１名のみ。WG でできるとよい。
澤野氏：今日の話を各機関に持ち帰り、意見交換していただき、第２回の部会でこういった話しになりましたとフィードバックをしてもらえるとより深いものになるのではないかと思う。

追加資料３

令和５（２０２３）人材育成検討チーム・管理者向け研修報告書

開催日時：令和５年７月１１日（火）10：00～12：00

作成者氏名：　たいざん・岡村光騎

参加機関（参加者氏名）

みよし市社会福祉協議会・谷口氏、※横山氏、地域アドバイザー・阪田氏、しおみの丘・松平氏、わらび・※熊谷氏、重松氏、深田氏、みよしはたらく協議会・鶴田氏、小西氏、兼重氏、角氏、わくワーク・伊藤氏、塚部氏、おーけーさぽーと・大沼氏、まほろ・古田氏、三好上ジョブハウス・川口氏、北風と太陽みよし・杉本氏、ポラリスみよし教室・松原氏、and　カイトみよし・橋本氏、ワンダーシーズンみよし・松本氏、泰山寮・近藤、山田、竹田（23 名）

福祉課・清水氏（見学）

事務局・研修委員・柿下氏、秋田氏、福井氏、恩田氏、藤本氏、井上、岡村（７名）

研修内容・係分担

【スケジュール】

０８：３０　会場設営（岡村）

０９：００　委員打合せ（全員）

０９：３０　駐車場誘導・受付（藤本、井上、恩田）

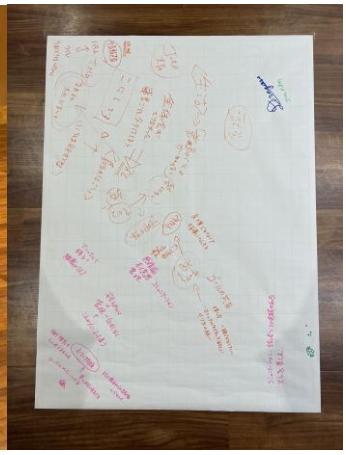
１０：００　研修開始・司会進行（岡村）「人材育成をテーマとした研修」の説明

１０：０１　あいさつ　みよし市障がい者自立支援協議会会長・谷口会長

１０：０５　研修の説明及び各グループでの自己紹介・名刺交換

１０：２０　ワールドカフェの説明（柿下氏）

１０：２５　ワールドカフェ①「それぞれの事業所で抱えている、人材育成の悩み事」



１０：４５　移動・自己紹介・名刺交換

１０：５０　ワールドカフェ②「悩みに対するアイデアを出そう」「成功例・失敗例」

１１：０５　移動・自己紹介・名刺交換

１１：０８　ワールドカフェ③「悩みに対するアイデアを出そう」「成功例・失敗例」

１１：２３　移動・自己紹介・名刺交換

１１：２６　ワールドカフェ④「もとのグループに戻り、情報の共有」

１１：４１　グループ発表

１１：５１　あいさつ　協議会副会長・地域アドバイザー・阪田氏

１２：００　アンケートの周知の後、研修終了
１２：１０　パワーランチ
１３：００　パワーランチ終了

アンケートの回収結果

参加者 22 名（阪田氏を除く）。アンケート提出 16 名。提出率 72.7%
設問１「研修会の満足度」
結果：研修会の満足度の平均・4。（5 段階評価　１は満足度が低く、５が高い）
設問２「１の理由」（自由記載）
・沢山の方と意見交換出来て良かった。
・人材育成の課題について他事業所の方と意見交換し、ポイントとなることの共有化ができた。
・当方の困り事に参考となるご意見をいただいたり、他事業所が困り事あった際の解決策を知ることができました。コロナ禍、他事業所の方と直接お会いしてお話しする機会がなく、貴重な時間を過ごすことができました。
・人材育成は永遠のテーマですが、課題が何か明確にイメージできました。どう取り組んでいくかはこれからですが、コミュニケーションの在り方についてヒントをもらえました。
・自分が困っている事の、解決もしくは答えとなるヒントが得られなかった為。
・地域型事業所の管理者レベルの方々と顔の見える関係の第一歩となった。
・職場における信頼関係を築くヒントをいただけたから。
・同じ福祉の中でも多種多様なご意見を聞くことができ大変参考になりました。
・みよし市内の様々な管理者の方と出会えたのは良かったし、話しやすいような仕掛けも良かったと思います。ただ、もう少し知り合えるような時間があると良かったように感じました。

・様々な事業所の方と話をする機会があり良かったです。
・多くの事業所の管理者の方が参加して、人材育成という大きな旧通のテーマで話し始めたことはとても良かったように感じました。
・他施設の管理者情報共有、様々なアドバイスを受けることができて勉強になりました。
・様々な事業所の方々と意見交換を行うことで、視野を広げることができた。
・グループワークの参加者は、人材育成を次の２つの視点で捉えていた。
①管理者は、組織に貢献できる人間を育てる。
②管理者は、従業員に組織で業務をこなすために必要とされるスキルを身につけさせる。
協議会が目指す人材育成は「ソーシャルワークを意識して業務に取り組めるようになる」とすると、上記２つの視点では足りないのかなと思いました。（かといって、良い案は浮かびませんが･･･）
・ワールドカフェ方式を用いて多くの方々のご意見を聴くことができたこと。もう少し話ができる時間があると良かったです。
・ワールドカフェなので話が盛り上がりにくく、深いはなしはできなかった。
設問３「事業所同士のつながりへの意識に変化は？」
変化があった 16 名（81%）。変化がなかった３名（19%）
設問４「３の意識の変化の理由」（自由記載）※下線は「変化がなかった」の理由
・他事業所様とさらに連携をとっていく必要性を感じることが出来ました。
・同じような課題があり、ともに協力して課題に向き合いましょうという実感が持てた。
・どこの事業所も同じような事で困っていて、その困り事を一法人一事業所で解決することが難しくても、このつながりで解決できることもあるかと思いました。
・事業所同士で困っていることがあれば、それを一緒に考え、一緒に解決できることがあれば、解決できるようにしていきたいと思いました。例えば、A 事業所はコレが出来なくて困っている。B 事業所はコレはあるけどアレが出来なくて困っている。A事業所はアレは出来るよ。じゃあ助け合えたら、もっといいよねって。そんな話をしました。
・自分自身意識をしているつもりですが、アクションを起こしていくことの大切さを感じました。
・上記の件と同じくです。（記載者注：「地域型事業所の管理者レベルの方々と顔の見える関係の第一歩となった。」と記載していると思われる。）
・近郊の事業者場所は知っていたが、顔の見える関係に近づいたから。
・コロナ禍でなかなか顔を合わせて繋がりを持つことが難しいなかで、今回久しぶりに対話できる機会を設けていただいたことを有り難く感じております。
・同じような悩みをもっていらっしゃることがわかり、大変励みになりました。
・事業所間の関わりはあった方が良いと感じました。
・他事業所との連携の意識が高まりました。
・事業所を知っていただけるよう意識してグループワークに参加できた。
・ワールドカフェ方式によって、さまざまな事業所の管理者と顔見知りになり、考え方を聞くことができたことは良かった。
・話しが表面上の話に終わり、深堀できなかったから。
・自立支援協議会発足をきっかけにつながる意識は持ち続けてきていると思うので。
・他事業所の方と話せたのはよい機会でしたが、今は研修だけで顔を合わせるだけなので。
設問５「今後の研修テーマの希望」（複数回答可）
みよしの地域福祉・障がい福祉計画　13（81.2%）
多職種連携　５（31.2%）

人材育成　２（12.5%）
法律・制度改正　２（12.5%）
労務管理　２（12.5%）
設問６「その他、ご意見等」
・事業所の管理者の立場と法人を管理する立場では立ち位置が違うので、同じ場で「管理職のための研修」を行うことに無理があると思いました。
・今回の研修はとても良かったと思います。なかなか答えの出ない難しいテーマでしたが、とても参考になりました。事業所同士のつながりも出来て、いい機会でした。自立支援協議会で出ている、みよし市の課題についてもっと知ることが出来たらいいなと個人的に思います。
・色々な立場の管理者が集まるので、それぞれのライフステージを意識しながら、障がいがあってもなくても、みよし市内で幸せに育ち・働き・暮らすには、それぞれの立場で何ができるか、何があると助かるのか、大切にしたいものは何か等が話し合えると良いなぁと。
・研修企画お疲れさまでした。みよしの事業所の管理をされている方々とお話ができる機会をつくっていただいてありがとうございました。みよしでむかし、みよしの福祉をみんなで語る会というのがありました。当時のまとまりのなかったみよしの事業者を集めていく画期的な取り組みでした。勤務時間外で時間を忘れて、みよしの将来を語っていました。そのような機会がまたもてたらいいなと感じました。
・次にどう展開していくかが重要になるように感じました。今回の研修の最後に次につなげる何かポイント的なものが組み込まれていると良かったように感じました。そうすることで、次まで取組を各々意識できるかなと思いました。今回参加できなかった事業所をどのよう取り込んでいくかが課題。
・人材育成についての共有は今後もお願いしたいです。
・みんなが話し合いしやすいよう研修進行をしていただければ良いと思います。
・同じテーマで継続して取り組むと、更にお互いの理解が深まってよいと思います。

追加資料４

地域生活支援拠点検討チーム　第１回ワークショップ後継事業報告書

開催日　令和５年６月２９日（木）
時間　　13：30～14：50
場所　　市役所　研修室１

参加機関（参加者氏名）		
あいちＮＰＯ市民ネットワーク：泉氏		きたよし包括：都築氏
おかよし包括：岩瀬氏、内田氏		シエルブルー：兼重氏
保険健康課：中川氏、野々山氏		みよし市社会福祉協議会：三輪氏
長寿介護課：近藤氏	福祉課：清水氏、立石氏	しおみの丘（秋田）

内容

●重層的支援体制整備事業・地域共生ワークショップの振り返り
・重層的支援体制整備事業について復習すると共に、昨年度の全４回のワークショップを通して取り組んできたことがまさに重層の考え方であることを確認。その中から出てきた４つのアイデア「ペット」「人材アプリ」「防災」「マップ作り」がどのようなアイデアだったかを再度確認する。
・昨年度までは重層的支援体制の大枠を学び、今年はそれを実践していくことを目標にしたいことを伝える。

●アイデアを実際に実現させていくための意見交換
・マップや防災は実際に市内で取り組んでいる団体があるため、そことコラボしていくことによって実現に近づくので、取り掛かりやすい。取り組みやすいところから取り組んでいくのもよいと思う。
・人材のアプリは取り組むうえでハードルが高い。
・ペットは実際の困りごとから上がってきたアイデア。これを形にしていけると良い。
・防災は自治区の防災訓練が８月に開催される。現状、８月の取り組みはすでに決まっているので、今からお願いするのは難しい。今年度は情報収集を行い、来年度の実施に向けて動いてもよいのでは。
・マップ作りはヘルスパートナーの取り組みで市内のウォーキングコースを歩くことが、次回は１０月にある。そこには参加しやすいと思う。
・防災の面で考えてもペットは問題になりやすい。避難所に避難する際に、ペットはどこで過ごすか等、問題になる。実際の避難訓練でペットを連れてくる人はいるのか？　→いないと思う。
・実際に防災訓練に参加したことがない。どのようなことを行っているのか参加してみるのもよいと思う。
・避難所を開設する際に、みよしは受付時に、避難者と別にペットの受付を行う仕組みになっている。
・ペットを預かるのは安いところで１日 2,000 円。今、実際にそこに預けて入院している人がいる。月に直すとかなりの額になる。
・ペットは実際にあずかるだけではない。散歩に連れていくだけであれば、ファミサ

ポみたいに部分的に支援するだけでも良いかもしれない。そういう意味ではマッチングの問題かもしれない。 ・実際に取り組んでいく上で、このメンバーですべてやらなくてはいけないわけではない。マップ作りでも絵が得意な人がいればその人にお願いすれば良いし、一人一人ができることを少しずつしていき、それが成果につながると良い。 ・このプロジェクトチームを結成する上で名前を付けたい。みんなで考えられると良い。
決定事項（まとめ）
・マップ作りに向けて取り組んでいく。10 月のヘルスパートナーと一緒に歩く取り組みに参加できる人は参加していく。 ・防災も今年度行うことは難しいが、来年度に向けて情報収集を行う。また実際に参加できる人は参加してみてどうだったかを次回共有する。 ・ペットはすぐに何かができるわけではないが、情報収集しながら継続協議とする。 ・次回、プロジェクトチームの名前の案を持ち寄って、決めていく。 ・次回は９月 14 日（木）13：30～　場所は未定。
その他、連絡事項等
今回参加できなかった人にも情報提供を行い、希望があれば、次回以降の参加でも積極的に受け付けていく。

記録作成者：しおみの丘　秋田雅治

追加資料5

みよし市版 地域生活支援等拠点事業・地域診断表

氏　名・所　属

（評価の付け方）各段階の各項目ごとに、自分の地域であてはまる評価の部分に〇をつける。段階ごとに〇の評価が多いところが、現在の地域生活支援等拠点・地域の段階（レベル）。

地域状況のレベル・発展段階の総合評価	地域生活支援拠点の５つの機能の成熟度					関連する、または中心的な役割を担う機関の成熟度		
	相談	緊急時の受け入れ・対応	体験の機会・場	専門的人材（SW）の確保・養成	地域の体制づくり	みよし市（行政）の関わり	自立支援協議会・相談支援事業（基幹センター）等の状況	事業所の意識・関わり
レベル1	相談窓口が明らかでなく、どこに相談したらよいか分からない。	障がい児（者）を緊急時に受入れる資源が市内・近隣市町にない。	日常生活や宿泊の体験の機会・場を提供できる資源がない。	専門的人材（SW：ソーシャルワーカー）の育成や養成を行う機会がない。	障がい児（者）の生活を地域全体で支える仕組みや、協議する場がない。	地域で支える仕組みづくりについて、意識が乏しい。	地域に基幹相談支援センター、もしくはそれに代わる相談体制が設置されていない。	地域の体制づくりを行う一員としての意識がない。
資源の整備が整っていない段階	□	□	□	□	□	□	□	□
レベル2	相談支援事業が実施されているが、窓口対応、電話対応のみとなっており、障がい児（者）や保護者のニーズが把握されていない。	緊急時の受入を行える資源はあるが、緊急時に速やかにそこまで繋ぐ仕組み（コーディネート機能等）が確立していない。	体験の機会・場を提供できる資源はあるが、そこまで繋ぐ仕組み（コーディネート機能等）が確立していない。	自立支援協議会・基幹センター等が研修会等を実施しているが、それぞれが個別に行っていて、連携が取れていない。	地域の支援者同士の顔が見えてきているが、自立支援協議会・相談支援事業（基幹センター）等がそれぞれ機能しており、各機関の連動が少ない。	仕組みづくりが役所内のみの議論で作られている。または他の社会資源やサービス事業所・機関にほとんど委ねている。	地域課題の対応に向けた取り組みが行われているが、それぞれのサービス事業所・機関が独自に活動しており、連動していない。	地域の事業所等と顔の見える関係性ができており、地域の体制づくりを行う一員としての当事者意識が出てきている。
各々が単独で活動している段階	□	□	□	□	□	□	□	□
レベル3 多機関の連携が動き始める段階	多機関の連携（個別支援会議等）により個別のニーズが把握されており、地域の課題として相談担当者に認識されている。	対象①（※欄外参照）に対して、緊急時の受入を行える資源に速やかに繋ぐ仕組みが整っているが、緊急時に困らないための対応が事前に検討できていない。	体験の機会・場を提供する仕組みは整っているが、本人のニーズに基づいた体験の機会を提供するまでには至っていない。	それぞれの機関が連動して研修会等を行い、相談担当者に対してSWの確保・養成ができている。	自立支援協議会・相談支援事業（基幹センター）等の地域資源同士が連携しており、障がい者計画・障がい福祉計画と連動性している。	地域生活支援拠点の整備について他の機関も交えて具体的に議論する場があり、行政の立場として積極的に参画している。	地域の支援機関同士の繋がりがあり、それぞれの機関で役割分担がなされている。	地域の体制づくりを行う一員としての当事者意識を持ち、多機関での具体的な連携ができている。
	□	□	□	□	□	□	□	□
レベル4 一定の仕組みが確立される時期	多機関の連携（個別支援会議等）により検討された内容が地域の課題として、相談担当者だけでなく障がい福祉従事者にも認識されている。	対象①②（※欄外参照）に対して、緊急時の受入の仕組みが整っており、緊急時に困らないように対応できる体制が整っている。	本人のニーズに基づき、その後の生活を見据えた体験の機会を提供する仕組みが整っている。	地域の仕組みとして意図のある研修等が行われ、相談担当者だけでなく障がい福祉従事者に対して、SWの確保・養成ができてきている。	相談支援事業（基幹センター）・自立支援協議会・行政・事業所等が一体となり体制づくりに取り組み、地域福祉計画（高齢・児童・障がいの各計画）とも連動している。	障がい福祉計画策定のプロセスも連動させながら、多機関により地域生活支援拠点の仕組みづくりを行う場がある。	それぞれの機関が有機的に連携しあい、地域の課題を共有し、地域を支える仕組みづくりを官民一体となって推進している。	地域生活等拠点事業の意義を理解し、当事者意識を持ち、具体的に地域生活支援拠点の機能を担っている。
	□	□	□	□	□	□	□	□
レベル5 更なる発展を目指す時期	相談担当者だけでなく障がい福祉従事者が、多様な地域の課題に対して、関係機関を活用し、連携を図り、対応できる支援体制が構築されている。	対象①②③（※欄外参照）に対して、緊急時の受入や緊急時に困らない体制に加え、緊急時が解決後の生活を支える支援システムができている。	ニーズの変化等に対応し、様々なチャレンジができるような地域の連携が整っている。	養成されたSWが、次のSWを確保・養成するキーパーソンとなっている。	高齢・児童・障がい等の各分野を超えた様々なつながりや、近隣地域との連携もとれており、能動的に地域の体制づくりを行っている。	県や障がい福祉圏域とも連携がとれており、広域の地域課題に取り組んでいる。	広域的なニーズや、分野を超えたニーズなどにも目を向け、より発展的な活動を行っている。	具体的に地域生活等拠点事業の機能を担い、なおかつより良い仕組みづくりについても積極的に参画している。
	□	□	□	□	□	□	□	□

対象①：相談支援専門員がついており、福祉サービスを利用している人
対象②：相談支援専門員がついているが、福祉サービスを利用していない人
対象③：相談支援専門員がついておらず、福祉サービスを利用していない人

みよし市障がい者自立支援協議会　令和4年11月21日　現在